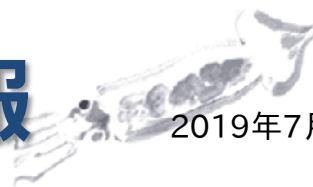


# 石川県漁海況情報



430号  
2019年7月12日発行

石川県水産総合センター 電話 0768-62-1324 FAX 0768-62-4324  
ホームページ <http://www.pref.ishikawa.lg.jp/suisan/center/sigenbu.html>  
携帯電話 [http://www.pref.ishikawa.lg.jp/mobile/suisan/center/sigenbu\\_files/p-index.html](http://www.pref.ishikawa.lg.jp/mobile/suisan/center/sigenbu_files/p-index.html)



## 本号の概要

### 調査船白山丸のスルメイカ調査結果（期間：6月20日～27日）

- 日本海中央部のスルメイカの分布量は前年および過去5年平均を大きく下回りました。
- 魚体は前年および過去5年平均より小さく、大型個体はほとんど分布していませんでした。

### 大型クラゲ情報（期間：6月11日～7月5日）

- 東シナ海、黄海および対馬海峡における大型クラゲの分布水準は前年同時期を上回っています。
- 長崎県五島・対馬・山口県の定置網で大型クラゲの入網がありました。
- 7月4・5日に加賀市の定置網で大型クラゲの入網がありました。

### 水産総合センター・トピックス

- 「クロマグロ仔稚魚調査結果」

## 調査船白山丸のスルメイカ調査結果（期間：6月20日～27日）

■ 調査船白山丸は6月20日から27日に能登半島沖～大和堆周辺海域（日本海中央部）の定点でイカ釣り調査を行いました。スルメイカの分布密度の指標であるCPUE（釣機1台1時間当たりの漁獲尾数）は0.0～6.1尾でした。全調査点の平均CPUEは1.9尾と極めて低く、前年（12.8尾）および過去5年平均（23.6尾）を下回りました。従って、今年6月の日本海中央部におけるスルメイカの分布量は前年および過去5年平均を大幅に下回っていたと判断できます。本調査で漁獲したスルメイカの外套長（魚体サイズの指標）の平均値は13.2cmであり、前年（19.5cm）および過去5年平均（20.4cm）に比べて魚体が小さく、例年、比較的多く漁獲される外套長20cm前後の個体はほとんど分布していませんでした。

### 調査船白山丸イカ釣り調査結果

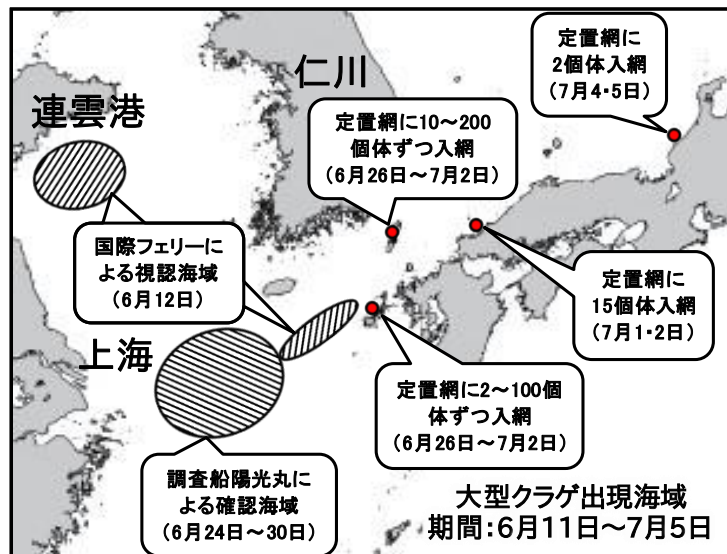
操業日	操業位置	漁獲尾数	CPUE	外套長範囲（主な魚体）	表面水温	50m水温
6月20日	38-00.2N, 136-20.3E	109	0.9	9～18cm(11cm)	20.9℃	15.05℃
6月21日	38-42.8N, 134-58.8E	566	4.5	9～14cm(13cm)	20.8℃	13.27℃
6月22日	39-00.0N, 133-41.8E	2	0.0	11～15cm	19.5℃	15.50℃
6月23日	39-40.1N, 134-23.6E	206	1.6	8～19cm(11cm)	19.0℃	12.26℃
6月24日	39-39.2N, 135-07.6E	3	0.0	10～14cm	18.9℃	14.33℃
6月25日	40-00.2N, 135-39.6E	6	0.0	7～11cm	18.8℃	7.14℃
6月26日	38-59.3N, 135-42.0E	645	6.1	10～22cm(12cm)	20.2℃	12.88℃

CPUE: 釣機1台1時間当たりの漁獲尾数、主な魚体: 漁獲尾数の多かったイカの外套長

## 大型クラゲ情報（期間:6月11日～7月5日）

■ 国立研究開発法人水産研究・教育機構が7月3日に、一般社団法人漁業情報サービスセンターが7月2・3日に発表した大型クラゲに関する情報および県内報告は次のとおりです。

**日本海** 6月26日～7月2日に対馬の定置網で10～200個体(傘径40～100cm)、五島の定置網で2～100個体(傘径50～100cm)の入網がありました。山口県の定置網で7月1・2日に15個体(傘径50cm)、石川県でも7月4・5日に加賀市の定置網で2個体(傘径50～60cm)入網しました。



**東シナ海・黄海** 6月24～30日に水産研究・教育機構の調査船陽光丸で行われた大型クラゲの目視調査では、東シナ海西部で傘径15～70cmの個体の分布が目撃されました。なお、曳網調査では計14個体が入網しました(前年度は入網なし)。6月11～14日に仁川(韓国)・連雲港(中国)間の国際フェリーで行われた目視調査では、青島南沖で傘径10～40cmの小規模な集団(最大密度は0.19個体/100m<sup>2</sup>)が目撃されました。仁川・連雲港間の前年度同期の最大密度は0個体/100m<sup>2</sup>で、今年度は前年度を上回りました。上海・大阪間の国際フェリーによる目視調査でも済州島南沖で傘径20～50cmの大規模な集団(最大密度1.89個体/100m<sup>2</sup>)が目撃されました。

**対馬海峡** 6月25日に国際フェリーで行われた目視調査では、東水道で52個体、西水道で19個体(傘径25～80cm)が確認されました(前年度同時期は東水道で1個体のみ確認)。

■ 東シナ海、黄海および対馬海峡の分布状況から、大型クラゲの分布水準は前年同時期を上回っていると判断されます。長崎県では広範囲で出現し、石川県でも入網があったことから、今後、注意が必要です。水産総合センターでは今後も大型クラゲの出現情報を収集・提供してまいります。大型クラゲの目視・入網情報等がありましたら、水産総合センターまでお知らせください。

## 石川県周辺海域の水温（期間:6月30日～7月4日）

■ 沿岸観測ブイの今期の水温(深度10m)は21.3～22.2℃で、前年同時期との差は-0.8～+0.5℃、過去3年平均との差は-0.7～+0.2℃でした。本県周辺(海岸線より30海里程度)の海面水温は21～22℃台であり、過去5年平均との差は-1.0～±0.0℃程度でした。

## 石川県主要港の水揚げ状況（期間:6月16日～30日）

■ 定置網ではサワラ・サゴシは前年を上回り、トビウオは前年を下回りました。まき網では全体で前年を下回りました。底びき網・ごち網ではスルメイカ・ハタハタは前年を上回り、アマエビは前年並みでした。

集計期間 6月16日～6月30日 (水揚量の単位はトン)

魚種	水揚港							期間合計	
	橋立	金沢	富来	輪島	珠洲地区	宇出津	七尾地区	本年	前年
<b>定置網</b>									
まあじ	2.4	0.7	3.8	8.3	12.3	38.1	28.7	94.4	81.5
さわら・さごし	1.0	0.2	49.5	19.8	0.4	6.6	8.1	85.5	23.3
とびうお	1.5	0.0	7.7	12.3	4.3	3.9	10.5	40.3	59.7
するめいか	0.0		0.2	0.1	7.0	21.1	6.3	34.8	13.5
ぶり	0.6		20.2	10.0	0.2	2.2	0.2	33.5	42.1
ふくらぎ・こそくら	1.1		7.7	8.1	0.7	1.8	5.7	25.0	48.1
うるめいわし					18.0	0.2	0.0	18.3	0.0
がんど			4.3	1.1	5.5	1.3	0.8	13.0	31.3
まだい	0.1		0.7	0.9	1.0	6.8	2.6	12.1	8.4
ふぐ類	0.2		0.8	4.9	1.4	1.9	1.4	10.6	16.8
その他	3.7	0.1	10.4	7.8	5.3	15.5	31.0	73.9	97.8
<b>合計</b>	<b>10.7</b>	<b>1.0</b>	<b>105.2</b>	<b>73.4</b>	<b>56.1</b>	<b>99.7</b>	<b>95.3</b>	<b>441.4</b>	<b>422.5</b>
<b>まき網</b>									
まいわし	—		118.8	0.2		—		118.9	1133.8
さば	—		52.2	18.5		—		70.7	437.4
まあじ	—		8.0	50.3		—		58.4	33.3
うるめいわし	—		18.2	2.7		—		20.9	82.3
するめいか	—		0.3	1.8		—		2.1	1.6
その他	—		0.1	0.6		—		0.7	18.5
<b>合計</b>	<b>—</b>		<b>197.6</b>	<b>74.0</b>		<b>—</b>		<b>271.6</b>	<b>1706.9</b>
<b>底びき網・ごち網</b>									
するめいか	0.1	0.1	0.0	81.8	0.6		—	82.6	1.1
あまえび	11.9	37.1		2.7	7.3		—	59.0	72.0
はたはた	1.4	1.5	0.2	1.2	24.5	7.1	—	35.8	27.6
にぎす		18.1	3.6	8.8	2.3		—	32.7	58.5
あかがれい	3.5	1.7	2.0	2.0	0.7		—	9.9	32.0
その他	9.8	7.9	2.3	20.7	4.7	0.6	—	46.0	96.1
<b>合計</b>	<b>26.7</b>	<b>66.5</b>	<b>8.1</b>	<b>117.0</b>	<b>40.0</b>	<b>7.7</b>	<b>—</b>	<b>266.0</b>	<b>287.4</b>
<b>刺網・釣り・その他</b>									
べにずわいがに		32.8	15.2	0.5				48.6	48.7
いわがき	0.2			17.8			0.1	18.0	22.0
さざえ			1.0	4.1	0.9	3.8	3.1	12.9	13.4
やなぎばちめ(ウスマバル)		0.1	0.2	10.1	0.0	0.1	0.7	11.2	6.6
まだこ	0.0	0.0		1.4	0.6	2.9	3.9	8.8	8.8
ふぐ類	0.0	0.0	4.5	2.5	0.0	0.0	0.0	7.0	5.0
かわはぎ(ウマツラ)	0.2	0.0	0.0	3.6	0.3	2.3	0.0	6.5	1.8
あからばちめ(ハツメ)				5.5				5.5	3.0
その他	2.5	4.3	2.4	19.0	1.6	3.1	3.6	36.4	62.1
<b>合計</b>	<b>2.9</b>	<b>37.2</b>	<b>23.4</b>	<b>64.5</b>	<b>3.4</b>	<b>12.1</b>	<b>11.4</b>	<b>154.9</b>	<b>171.4</b>
<b>小型いか釣り</b>									
するめいか20入り	0.0	0.5	5.5	10.5	11.2	0.0	0.0	27.7	14.9
するめいか25入り	0.0	0.6	8.7	30.8	49.6	0.1	0.0	89.8	75.4
するめいか30入り	0.0	0.1	5.5	29.5	55.9	0.2	0.0	91.4	98.2
するめいか40入り以上	0.0	0.1	1.7	9.3	15.1	0.5	0.0	26.7	61.1
<b>合計</b>	<b>0.0</b>	<b>1.3</b>	<b>21.4</b>	<b>80.1</b>	<b>131.9</b>	<b>0.9</b>	<b>0.0</b>	<b>235.6</b>	<b>249.6</b>
<b>総計</b>	<b>40.3</b>	<b>106.0</b>	<b>355.7</b>	<b>409.0</b>	<b>231.4</b>	<b>120.4</b>	<b>106.6</b>	<b>1369.5</b>	<b>2837.7</b>

注:宇出津は松波港を含む、富来・輪島は一部未集計

## クロマグロ仔稚魚調査結果

■ 太平洋クロマグロの親魚資源量は歴史的最低水準となっており、早急な資源回復が求められています。そこで日本では小型魚の漁獲量を基準年(2002～2004年)の半分以上、大型魚の漁獲量を基準年より増やさないことを国際的に約束し、現在は海洋生物資源の保存及び管理に関する法律(TAC法)に基づいた厳格な漁獲量の管理がされています。

■ 多くの魚類では卵から仔稚魚の間に大部分の個体はほかの魚に食べられることなどにより死んでしまいますが、大きくなるにつれて死亡する割合は減っていきます。そのため、適切な資源管理のためには、多くの個体が死んでしまう卵から仔稚魚の間はどこに分布し、どうやって成長して、何が原因で死んでしまうのかなどをより詳しく知ることが重要となります。

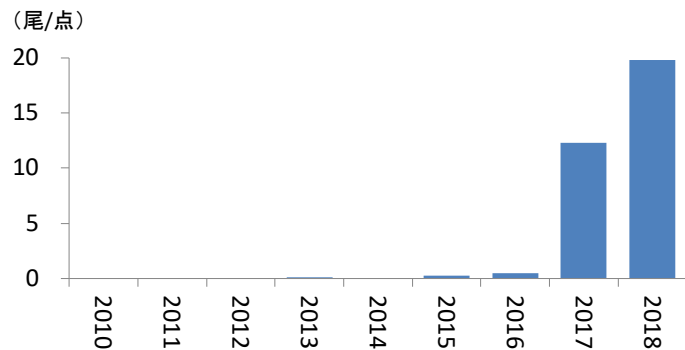
■ そこで石川県水産総合センターでは2010年から国際水産資源研究所や各関係県と共同でクロマグロ仔稚魚の採集調査をしています。当センターは7月下旬から8月上旬にかけて漁業調査指導船白山丸を用いた、能登半島北西海域での調査を担当しています。

■ 2010～2016年には、能登半島北西海域で、クロマグロ仔稚魚はほとんど採集されませんでした。2017年の調査では合計294尾、2018年の調査では合計475尾のクロマグロ仔稚魚が採集されました。2年続けて仔魚が多く採集されたことから、近年太平洋クロマグロの産卵量が多くなった可能性が考えられます。また、多くの仔魚が採集されたということは、能登半島北西海域が本種の仔魚期の生活史において重要な海域になっていると考えられます。

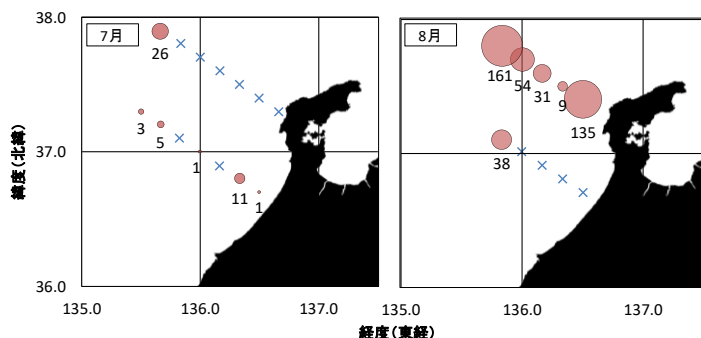
■ 当センターでは今後も引き続き国際水産資源研究所や関係各県と連携してクロマグロの資源生態調査、研究を実施する予定です。なお、本調査は水産庁委託事業「国際漁業資源評価調査・情報提供委託事業」によって行なわれました。(川畑 達)



仔稚魚調査の様子



クロマグロ仔魚の年別平均採集尾数(1調査点あたり)



※グラフ内の数字は各調査点での採集尾数を表す。

2018年度クロマグロ仔稚魚採集調査海域